

明るく住みよ

力 3 合 総 次 5 才

●畜産環境保全事業

飼養規模の増大により悪臭、ふん尿等の畜産公害をなくすため、施設の改修、野菜生産農家等との提携によりふん尿の土地還元を推進

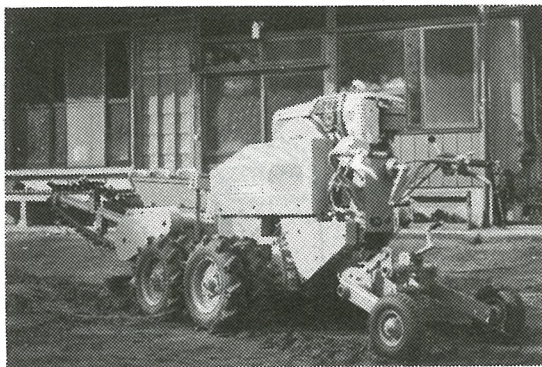


▶畜産公害対策の一環として導入されたバキュームカー

進し、畜産環境の保全につとめます。

商業の振興

本町は、商店街が形成されておらず、横芝町へ四五%、八日市場市



▶トレンチャー

へ一一%も流出している現状です。これらの現象を防ぐためにも国県並びに町の制度資金を有効に利用し、商店街の整備、共同駐車場の設置に努め、商工会とも協力して商業の振興を図ります。

工業の振興

当町の産業就業構造は、昭和四十年では農業が全体の七〇%を占めていたが、昭和五十年では五〇%と大きく減少を示しています。

これは高度経済成長の影響はいうまでもありませんが、生活様式の高高度化あるいは、農作業の機械化に伴い労働力の省力化が進み他産業就業へと流出したためと思われまます。このような状況から住民の雇用機会の拡大と所得水準の向上を図るため、公害のない内陸型企業を厳選し、地域の環境をかみしながら企業導入を推進します。

人口の見通し

当町の人口は、昭和四十年以降四十五年に一時的減少したもののほぼ平行線をたどってきたが、昭和四十五年と比較し昭和五十年には三、二%と増加しています。

今後も、成田新東京国際空港の開港、九十九里海岸地域の観光開発、民間宅地開発等により、人口の流入も考えられるので徐々に増加して行くものと思われまます。

住民参加の施策を

昭和四十一年に第一次計画を策定以来、第四次計画まで計画どおりの執行をみる事ができましたことは、町民各位をはじめ関係諸機関のご協力によるものと感謝申し上げます。

しかしながら、当町

をとりまく諸条件は厳しく、特に米の生産調整問題を始め、新東京国際空港による影響等は町の将来を大きく変えるものであると思われまます。

今後は、これらの問題を的確に把握し、対処して行くとともに、

従来計画の見直しを図りながら住民参加による幅広い施策を行い安定成長時代にみあった事業を推進

では、これらの計画実現について

進し、より調和のとれた明るい町づくりを行う所存であります。

ここに、今後三カ年間の町政の

指針となる第五次三カ年計画を策定いたしました。現在の情勢下

でも樂觀を許さない状況であります。皆さんをはじめ関係機関の

ご協力を得て、住みよい光町を築くため努力する決意であります。



町長 馬場 幸太郎

観光の振興

当町の観光資源は、夏期の九十九里海水浴場、四季を通じての栗山川の釣り、虫生の鬼来迎、成田山御本尊上陸記念碑などがある程度ですが、国際空港の開港に伴い当町を訪れる観光客も増加すると

光町の人口

(単位：人・%)

年度	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年
人口	11,220	11,042	11,392	11,755
対前期増加率	△ 6.6	△ 8.1	3.2	3.2
対40年比率	0	△ 8.1	1.5	4.8